

平成 24 年 7 月 2 日

南 の 風 VII

南部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

女子バスケットボール、ロンドンオリンピック最終予選のカナダ戦、本当に残念でした。あと一歩でした。ロンドンオリンピックは逃してしまいましたが、選手の皆さん、最後まで諦めることなく全力で戦ったことに心より敬意を表します。またスタッフ、並びに関係者の皆さん、いろいろな制約の中で頑張っていたいただきました。本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

右にスコアを書きます。

	1 P	2 P	3 P	4 P	合 計
日 本	11	20	11	21	63
カナダ	21	16	15	19	71

テレビでご覧になった方も多かったのではないのでしょうか。それぞれ感想なり、ご意見があるのではないかと思います。私なりの感想を書くことにします。

まず「はやぶさ JAPAN」の選手の動きが、少し鈍かったように感じました。(韓国戦に比べて)やはり緊張のためでしょうか？ それとも疲労のため？ 特にディフェンスに表れていました。

ゾーンディフェンスを多用していました。作戦面のことでですから、外部がとやかく言うことはないと思います。ただ5人でリバウンドをどう捕ろうとするのかがよくわかりませんでした。ボックスアウトを強烈にして、相手を少しでもリングから遠ざける努力をする、あるいは相手に捕られそうな時に、一緒に跳ばずに時間差をつけて跳ぶ、などの工夫が見られなかったのは残念でした。

また外角のシュートに対する「落下点ルーズボール」(大きく跳ね返ったボール)への反応が遅く、相手に再度ボールを持たれ、オフェンスの機会をあたえてしまったことが何度かあり惜しかったです。1Pの10点差にそれが表れていました。身長の高いチームがいかにしてリバウンドを捕るか、また捕れないまでも、相手にプレッシャーをかけた状態をどうつくるかが大切です。(これはミニバスも全日本も全く同じです。)

次にディフェンス全体について触れてみます。ゲームを見ていて、日本の長身者のディフェンス個人スキルが、外国の選手に比べて落ちる気がしました。ボールに対する反応や、相手の動きに対する反応がワンテンポからツーテンポ遅いということです。例えばポストのディフェンスで、簡単に相手の長身者にポジション取りをさせてしまうとか、また、ポストにボールを入れられて外に返される場合の反応の遅さ(予測や読みも関係している。)に表れていました。これは、Ⅱ号にも書きました、コーディネイティブ能力(身体を調整する能力)の不足によるものです。リアクション(バスケットボールは特に視覚による反射能力)やアダプタビリティ(適合・適応能力=ゲームの最中に状況の変化を認識し、瞬時に自分の動きを切り替える能力)そしてカップリング(連結・結合能力=ディフェンスでは、手の動きと足のステップワークを連結させる)の三つが特に関係しています。そしてこの能力はミニバス時代につけなければならぬものです。大人になってからでは絶対に遅いのです。我々ミニバスに携わる者は、フットワークでガンガン選手を鍛えるよりも、コーディネイティブ能力の開発にこそもっともっと力を注ぐべきではないのでしょうか。オフェンスについては次号にします。